

教科書の横顔

商業 301 ビジネス基礎

(1) “教科商業の基礎” である『ビジネス基礎』

新学習指導要領において、『ビジネス基礎』は、「ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる」ことを目標としている。新学習指導要領における科目の位置づけは、現行学習指導要領と同様であるが、教科商業の科目構成・科目内容の変化とともに、新たな学習項目が加わった。

(2) 今回新設された内容

教科書『ビジネス基礎』に新たに加わった内容としては、コミュニケーション・ビジネスマナーを扱った「コミュニケーションの基礎」がある。豊富なイラストやロールプレイングなどを盛り込み、状況にあった職業人としての判断能力や態度を習得できるようにした。また、「情報の入手と活用」では、膨大な情報で溢れる現代においていかに情報を入手し活用していくか、ということについて注意点を挙げながら記述している。「経済の基礎」では希少性・トレードオフ・機会費用など経済学の重要な概念を、生徒に身近な事例を用いながら記述した。この項目では、経済に関するより深い理解を醸成するとともに、新設された『ビジネス経済』などの発展科目への基礎固めの役割を果たしている。1年生の早い時期に扱う学校が多い「売買に関する計算」は一つの章として独立させ、練習問題の数を倍増させた。内容としては、利息の計算を新たに追加した。

(3) 将来の職業人を夢見て

教科書の編修・執筆に際しては、この科目を学ぶ生徒たちが、将来働くことに対してより積極的な姿勢を持って欲しいという願いを込めた。そのため、職業人としての高い志や遵法精神を育むきっかけになるような職業倫理に関する具体的な事例を豊富に掲載した。本教科書を存分に活用することで、「生きる力」の獲得への第一歩が確かな形で踏み出されることを強く願っている。

(神奈川県立厚木商業高等学校教諭 岩村 夏樹)

商業 304 マーケティング

商業科目『マーケティング』は、新学習指導要領で科目の位置づけに変更が加えられた。現行学習指導要領では、流通ビジネス分野の『商品と流通』の発展科目として位置づけられていたが、新学習指導要領においては、マーケティング分野の「基礎的な科目」とされ、それを前提に同分野の発展科目である『商品開発』と『広告と販売促進』に繋げる形になった。

個別の学習項目の変更点に目を向けると、新しい教科書『マーケティング』においては、「店舗の立地と設計」と「広告・販売の実習」の項目が無くなり、「消費者行動」が新たに加わった。「消費者行動」は、消費者が商品を購入し、消費するまでの心の動きを多様な視点から整理するものである。商品を購入・消費するという行為は、人間であれば誰もが日常的に体験していることなので、「消費者行動」を学習することは、自らの購買・消費体験を整理していることにもなり、生徒の興味・関心を引きやすいテーマになるだろう。

また、時代の移り変わりにあわせて、記述を調整している。たとえば、「販売促進」の章においては、学問的な重要性の高まりから、「ブランド」に関する記述を一つの節としてまとめている。また、「モバイル広告」や「SNS」などインターネットの影響も取り上げた。いずれも、現在のビジネス活動において重要なテーマになっているからである。

このように、科目の位置づけの変更、それに伴う、記述項目の追加・調整が行われたが、『マーケティング』の教科書としての基本的枠組み自体には、大きな変更を加えていない。マーケティングを網羅的かつ体系的にまとめた教科書にするという編集方針は一貫している。それは、マーケティングという領域に初めて触れる生徒達の良き水先案内役として、十分に資するものにするということを意図している。

この教科書の学習を通じて、マーケティングを学習することの意義を感じ取り、意欲的に学習する生徒が一人でも多くいることを願っている。

(明治大学教授 小林 一)

商業 306 新簿記

生徒が安心して学習に取り組めるように、分かりやすい表現を心がけました。特に、生徒が各章における学習の目的を常に意識しながら、学習できるように配慮し、デザインを工夫しています。まず、章タイトルを大きく取り、本章では何を学ぶのかを生徒にはっきり示しています。また、章末においては「勘定科目のまとめ」を、後見返しには「勘定科目一覧表」を設けました。この連動した資料により、学習の要点を明確にしています。

本文中の展開も特徴があります。まず、取引の基本仕訳を色付きの囲みで扱っています。これにより生徒は、取引を勘定記入だけでなく、仕訳の形式でも理解することができます。簿記の初学者は、取引要素の結合関係を学ぶことに苦労します。学習の序盤で理論は学んでも、その内容を理解するようになるには、時間がかかります。本書では、様々な取引を学ぶたびに、囲みで示した基本仕訳に触れることとなります。これにより、生徒は、複式簿記の仕組みについて、理解を深めることができます。

本文以外では、イラストや図解を多くし、視覚的にも理解しやすくしています。つまづきやすい箇所は、先輩をイメージしたキャラクターがコメントをしています。また、発展的な内容については簿記博士がわかりやすく解説をしています。

検定試験にも対応しています。まず、本書の第4編までで全商簿記実務検定3級の出題範囲をカバーしています。また、「株式会社の取引」については発展編として扱っているため、本書一冊で同検定2級の範囲もカバーすることができます。

問題練習は、基礎問題からはじまり、検定試験にも対応できる応用問題へと段階を追って出題しています。特に基本問題は、本文中の例題と同じ表現で出題しているため、生徒は本文の内容と例題を復習しながら、安心して問題を解くことができます。

取引を記録・計算・整理することは、とても神経を使うことです。実務では、文字を慎重かつ丁寧に書き、金額を何度も確かめます。この習慣は高校生の段階で身につけておきたいものです。本書の編とびらのイラストには新入社員の二人（とオフィスの植物）が苦労をしながら成長していく過程をイラストで示しました。是非、生徒自らが働くことを意識して、主体的に学習してもらいたいと思います。

（群馬県立前橋商業高等学校教諭 鈴木 友則）

商業 307 高校簿記

昨年はオリンパス(株)の有価証券報告書の虚偽記載がマスコミをにぎわし、証券市場に対する不信が極度に高まった年であった。今年はわが国の上場企業の連結財務諸表に、IFRS（国際財務報告基準）を強制適用するかどうかの方針決定を予定している年である。会社法や税法との関係やIFRSの適用対象、単体財務諸表等、解決すべき課題は数多い。このような激動の時代を迎えている今、簿記教育はどうあるべきなのであろうか。

新学習指導要領では、簿記と実務との関連性を認識させるために、会計情報の流れ、職業および会計担当者の役割や責任に関する内容を取り入れる改善が図られ、科目目標には法規や基準の変更に対応し、適正な会計処理を行う能力と態度を育てるという趣旨が加えられた。

当該改訂にもとづき、簿記に関する知識と技術を習得するためには反復学習が効果的であることより、本書では次の点に配慮して編纂した。

各章を①本文説明、②例題・図解、③確認問題、④完成問題の4つのSTEPに分け、章毎にこれを繰り返す形式とした。各編では、決算までを含めた一連の処理を学習していく、所謂サイクル学習方式を採用した。

一方で、例えば伝票を用いた処理方法については、3伝票制と5伝票制を連続して学習するようなスピード展開にも対応出来るような構成配列としている。

すすんだ学習内容を紹介する囲み記事や、基本的な学習内容の確実な理解を図るための囲み記事に関連箇所に挿入し、また発展学習として株式会社の記帳方法を盛り込み、簿記の学習の幅をひろげることができるようにした。具体的には、本文店の合併財務諸表を学習する際に、後に学ぶ連結会計への導入を考慮し、本支店合併精算表を新たに取り入れた。加えて本書には、ユニバーサルカラーを使用することにより、色に対するバリアフリーにも心を配った。

本書は多くの方々の御尽力により、熱意が詰まったものに仕上がっている。新学習指導要領に込められた思いを、簿記を学ぼうとする生徒達に届けられる1冊となり、本書によって簿記を学習し、有能な社会人になることができるよう願っている。

（川口市立川口総合高等学校教諭 渡部 浩一）

商業 309 情報処理

商業 310 最新情報処理

はじめに

今回の学習指導要領の改訂で、「経営情報分野」は「ビジネス情報分野」と改称され、整理統合された旧科目『商業技術』の「商業文書」分野と『文書デザイン』の「プレゼンテーション」に関する内容を、新科目『情報処理』で扱うこととなった。これに伴い、コンピュータや情報通信ネットワークを適切に運用してビジネスに関する情報を処理し、その得られた情報をビジネスの諸活動に活用する能力を育てられるように教科書の編修に臨んだ。

目指す人材

新科目『情報処理』は、ビジネスに関する情報を収集・処理・分析して表現するまでの一連の活動だけでなく、知的財産の保護などに留意して、ビジネスの諸活動においての情報を適切に活用する能力と態度を育てる観点から、ビジネス文書の作成とプレゼンテーションに関する内容が盛り込まれた。そして、将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本はもちろん、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図り、体験的学習（プレゼンテーションなど）を通して実践力を培い、職業人として期待される人材になれることを目指している。

今回も2点発行

情報処理科や情報管理科のように、ビジネス情報分野を中心に履修する学校と、商業科や会計科、流通ビジネス科のようにビジネス情報分野を中心としない学校との履修内容や到達目標の違いから、先生方の授業スタイルに一致した教科書を提供できると考え、今回も2点の教科書発行を計画した。

●2点の共通点●

- (1)今までと同様、すべてのページをカラーとし、表計算・ワープロ・フォトレタッチ・プレゼンテーションなどのアプリケーションソフトウェアの操作画面を、教科書でも同様の操作手順で実行結果を確認できるように、実際の画面を切り抜いた図を多数掲載した。全商主催の現行のワープロ検定や、情報処理検定では2級はもちろん、平成25年度からの3級の実技試験にも充分対応できる内容である。
- (2) ネットワークの仕組みやセキュリティ分野では、生徒がイメージ・理解しやすいように、例えば、ネットワークの構成やネットショッピングでの注文入

力フォームをイメージ図で解説している。

●2点の差別化●

- (1)各学科の授業形態に対応できるように、表計算ソフトウェアで取り扱う関数やグラフ作成などの処理に差をつけた。
- (2)到達目標の一つである全商主催の情報処理検定（ビジネス情報分野）に、1級まで対応できるものと、2級までのものとの差別化を図った。平成25年度以降に検定基準の見直しが予想されるが、現在の検定には充分対応できる内容になっている。

新しい取り組み

アプリケーションソフトウェアの活用に関する記述は、現行の教科書でも詳しく説明しているが、それは目の前にすでにコンピュータがあることを前提として解説をしていた。しかし今回、ハードウェアの章では、コンピュータを活用する前に、コンピュータを利用して処理をする内容によって、使用するコンピュータを自分自身で選ぶことができるように、①カタログ例を掲載し、②どの項目に着目したらよいか、③どのような処理能力を備えているコンピュータなのか？

などの内容を理解した上で、適切なハードウェアの選択ができるように工夫して解説をした。

また、デジタル画像の撮影機器の記述や、撮影した画像をコンピュータに取り込む方法など、画像処理を行うために必要な準備の説明を追加した。

さいごに

今回の新科目『情報処理』は、目の前の作業にとどまらず、一連の作業を通してのビジネス力、いわば、コミュニケーション能力に優れた人材育成ができるまったく新しい教科書だと思う。この科目を学習することで、商業高校出身者がビジネス界で広く活躍することを大いに期待している。

完成した見本本を、ぜひ手にとってご検討いただき、平成25年度以降、商業高校生がこの本を手にして学習していることを切望する。

商業 312 プログラミングCOBOL

今回の改訂では、内容の大幅な変更はないものの、この科目が、従来から商業高校の情報処理教育の中核をなす重要な科目であることから、「プログラミングに関する知識と技術を、様々なプログラム言語に応用する能力を育てる」という観点から内容が再構築された。

本書では、高校生の「夏木ゆり子」が登場してプログラミングを学習し、卒業してデパートに就職し、順に研修を進めていくというストーリー展開はそのままとし、一部の章で項目の追加・修正を行った。

【1章 コンピュータとプログラム】

①RFIDやクラウドコンピューティング、ASPサービス、SaaSなど情報化の進展による新しい用語を追加し、解説した。

②ユビキタスコンピューティングを取り上げ、現在・今後のユビキタスネットワーク社会を展望した。

【2章 プログラミングの基礎】

①アルゴリズムに関する記述を追加した。

②構造化定理について加筆し、構造化プログラミングの内容を充実させた。

【2章～6章】(例題や実習で利用するデータ)

①実習が楽しくできるように、最新の統計データ、スポーツ選手名、商品名などを用意した。

②日本の伝統・文化、郷土愛などが感じ取れるようなデータを用意した。

【8章 ハードウェア・ソフトウェア】

①携帯情報端末(PDA)やスマートフォンなど最新の情報機器を取り上げた。

②データ構造について詳しい解説を行い、基本データ構造、問題向きデータ構造が理解できるようにした。

③音声・画像などの表現に関する節を起し、デジタルデータへの変換やそれぞれの表現方法の違いを取り上げた。

④知的財産権の保護に関する内容を記述した。

本教科書が発行されるにもかかわらず、全商情報処理検定プログラミング部門では、COBOLが廃止になる予定である。しかし、COBOLを中心としたプログラミング教育が、商業高校での情報処理教育の中核であることに間違いはなく、基本情報技術者試験(FE)への道もつながっている。工夫を積み重ね、COBOL実習を今後とも続けて欲しい。
※「プログラミングJava」は、平成24年4月検定提出済み。

全商 会計実務検定試験テキスト 財務諸表分析 三訂版のご案内



B5判 / 144頁 定価 1,200円

経済の国際化の中、わが国企業実務を支配する会計諸基準・規則も大きく変化しています。商業会計教育をこれに対応させるため、情報をいち早く取り入れることも目的とした本書は、早速、所定の改訂を行い、「三訂版」として発行しました。今回の主な改訂点は次のとおりです。

①平成24年2月現在の会計諸基準・規則の改定を公表財務諸表に基づき解説しました(第1部第2章)。さらに、すべての財務諸表データを最新の実務を体験・学習できるよう更新しました。

②受験指導のため、第0回、第1回、第2回、第3回の過去試験問題4回分を収録*しました。

以上により、商業・会計に携わる者として時代に対応できる生きた知識が習得できるよう配慮しました。

※過去問題以外にも、模擬試験問題形式の補充問題を、弊社webサイトよりダウンロードしてご利用いただけます。